

八潮市ウェブ・アクセシビリティガイドライン

「八潮市公式ホームページ」を高齢者や障がい者など心身の機能に制約のある人を含め、誰に対してもウェブサイトを提供されている情報がきちんと伝わり、「誰もが提供されている機能やサービスを問題なく利用できる」ものとするために、ウェブ・アクセシビリティの指針を定め、これを公開する。

1. 適切なページタイトルを設定する

- ・各ページのタイトルには、そのページの内容が容易に分かる確実に伝わるものをつける。
- ・ウェブサイト内で、同じタイトルのページが複数ないようにする。

2. 文字色と背景色に配慮し、読みやすい組み合わせとする

- ・「八潮市公式ホームページ」では、次の配色を原則とする。
 - 背景色…白
 - 本文文字…黒
 - 見出し文字…黒
 - リンク文字…黒
- ・文字色と背景色には十分なコントラストをとる。
- ・やむを得ない事情がある場合を除き、背景に写真や画像を設定しない。

3. 文字の形や色の違いだけで情報の区別をしない

- ・「見出し」については、色やフォントサイズを変えるだけでなく、<h>タグによってマークアップをする。
- ・強調したい単語や文章は、強調やタグを使用する。

4. キーボードだけで、全ての操作ができるようにする

キーボードの矢印キー、TAB キー、エンターキーなどのキーを使って操作ができるようにする。

5. 画像の設定について

- ・画像には alt 属性による代替テキストを用意するか、画像の補足説明を表示する。ただし、アイコンや、同じ内容のテキストが並んでいる場合は、音声読み上げの邪魔になるので、alt=""と記述する（""間にはなにも記述しない）。
- ・画像の掲載は、原則2枚以内とする。画像は、1枚につき、80 キロバイト～100 キロバイト程度、サイズは 200 ピクセル×130 ピクセル～250 ピクセル×170 ピクセル程度とする。

6. リンクのある文字は、リンク先の内容がわかるように表現する

「ここ」「こちら」「クリック」などは、リンク先になにがあるのかわからないので、クリック先のページ名やダウンロードされるファイル名を書き、そのテキストにリンクを設定する。

7. ページのデザイン（色、配置、ボタン類）を統一する

- ・どのページを見ても、それが「八潮市公式ホームページ」内のページであることがわかるよう、レイアウトや配色などを統一する。
- ・ナビゲーションバーなどは同じ位置に配置し、操作を迷いにくくする。

8. 半角カタカナ、機種に依存する文字を使用しない

半角カタカナや丸つき数字、ローマ数字、単位記号などの機種に依存する文字は使用しない。

9. 記号を装飾用に使用しない

日時の表示や単位表記の記号は、言葉に置き換える。

10. 漢字・ひらがなの読み、同音異義語への配慮

- ・読みの難しい言葉や固有名詞などを多用しない。
- ・ひらがなの「は」のように、「ha」と発音したり「wa」と発音したりするものは、誤読を避けるために、読点を適当な場所に打つなどの配慮をする。
- ・同音異義語は、音声として聞くとその判断に迷うときがあるため、できるだけ、他の言葉に言い換える。

11. 専門用語、略語などをなるべく使わない

- ・「読んでもらえることば」「伝わることば」で文章を書くことを心がけ、専門用語や略語の使用を避け、一般的な言葉に言い換えたり、言い換えに適切な言葉がない場合には注釈をつける。
- ・「及び」「又は」「等」などもひらがなで書き、少しでも「やわらかい表現」を心がける。

12. 表は、読み上げる順序（左上から右下）に配慮する

- ・音声読み上げブラウザでは、表を左から右へ1行ずつ上から順番に読み上げるため、表を使用するときには、この読み上げ順を考え、きちんと内容が伝わる表にする。
- ・Caption要素を使って、わかりやすい表題を付ける。
- ・見出し項目については、<td>ではなく、<th>で記述する。
- ・セルの結合については必要最小限とし、見た目にはわかりやすくても読み上げに混乱を生じるような作り方をしない。

13. レイアウト目的の表はなるべく使わず、スタイルシートを使用する

表は、あくまでもデータをわかりやすく見せるためのものであり、余白の設定などレイアウトの目的で表を使うのは便利であるが、あまり薦められないこととされている。レイアウトはスタイルシートで設定することを原則とし、どうしてもレイアウト目的で表を使用するときには、その読み上げ順に十分配慮する。

14. フレームは原則使用しない

フレームはレイアウト上、たいへん便利であるが、対応していないブラウザがあったり、音声読み上げブラウザでは意図どおり読まれなかったりする。またサーチエンジンから特定のページを訪れた人にとっては混乱を招く可能性もある。

アクセシビリティに配慮したフレームコンテンツを作成することも可能だが、誰にでも使いやすいページを目指し、原則、フレームを使用しない。

15. プラグインはアクセシブルなものを用いる

プラグインが必要なものについては、プラグインが必要なことを明記し、そのダウンロード用リンクを設定する。

なお、PDFはバージョンによっては音声読み上げ機能があるが、すべての人が対応バージョンを使用しているわけではない。原則としてPDFはダウンロード用と考え、テキストのページを用意する。

大量の文書をPDFとして提供するときには、その内容を抜粋したテキストページを用意する。

その他のプラグインについては、視覚デザイン的な用途には使用しない。

ただし、「やしお地図案内」は、プラグインは不要であるが、地図情報などそのものが視覚イメージに頼るものであり、やむを得ないものとする。

16. 文字サイズや色、配置などの表現要素にはスタイルシートを使用する

文字の修飾は、スタイルシートで指定することが推奨されているので、これを守る。文字サイズについては、利用者が文字の大きさを変更することを考えて、サイズの絶対指定をしない。

17. スタイルシートが適用されなくても、利用可能なページとする

ブラウザによってスタイルシートに対応していない、あるいは一部の機能しか適用されないものもあるため、ブラウザの違い、ブラウザのバージョンの違いを考慮した複数のスタイルシートを用意する。さらに、スタイルシートを無効にした状態で、そのページの内容が正確に伝わるものでなければならない。

テキストブラウザで表示し、その表示に問題がなければ、スタイルシートの不適用や音声読み上げでの問題はないと考える。

18. 利用者が「見て」いることを前提とした表現を使わない

「下記のとおり」「左図に示すとおり」といった視覚による方向を示す表現や、「ご覧ください」といった表現は、音声読み上げでは何の意味も持たないので、音声読み上げでも十分意味の伝わる表現をする。

19. 作成したウェブページは、実際に読み、さらに音声読み上げブラウザで聞いてみる

作成した文章は、実際に声を出して読み、音声読み上げブラウザで動作に配慮を行うこと。内容が正確に伝わらない部分があれば修正してから公開する。